

診療所を中核とした地域医療経営人材育成プログラム 授業計画

授業科目名	医療機関事業承継	担当者	岩井小夜、野村憲太郎 小出 圭一、足達 正和	実施月	2018年7月～9月
-------	----------	-----	---------------------------	-----	------------

■講義目的

診療所を運営する医師の事業承継を中心として実践的な問題を取り上げます。親族承継、他人承継の両面から、地域の「かかりつけ医」が果たす役割を都市部と地方の実情に合った形で考察します。

■教科書＜著者『タイトル』出版社、出版年＞

独自テキストをメインに使用します。

■各回ごとの授業内容

第1回 1-2 講時 医療機関における事業承継の特色

医療機関における事業承継の一般法人（事業）との違いについて解説し、その特色について理解を深める。また、現在移行を推奨されている持分なし医療法人の内容について理解することで、持分のある医療法人から持分のない医療法人へ移行することが事業承継の有効な方策であるかについて討議を行う。

第2回 3-4 講時 親子承継事例1

父から子への親子承継事例を取り上げる。大学病院で研鑽をつむ子に対するスムーズな事業承継手法の検討、父の所有する医療法人出資の子への移転、事業承継後の父の生活費の確保について討議を行う。

第3回 5-6 講時 他人承継事例1

第三者へのM&Aで診療所の譲渡を検討している事例を取り上げる。経営者の意思決定事項として、譲渡するのかこのまま事業を続けるのか、譲渡するとすればその相手はどのような先がよいのか、譲渡金額の評価方法はどうかを検討する。また譲渡せず事業を続けるとすれば、組織において必要な人材をどういった形で育成していくのかについて討議を行う。

第4回 7-8 講時 親子承継事例2

父から義理の子への事業承継についての事例を取り上げる。非医師である子がいる中でスムーズに事業承継を行うために苦心した経緯、当該ケースにおける退職金の支給に関する実務的な検討課題、出資金の評価に関して討議を行う。

第5回 9-10 講時 医師が行う介護事業における他人承継

介護事業については医療機関のみならず事業の種類によっては一般法人でも行うことが可能である。医師が手がけた介護事業の承継について大規模な一般法人への譲渡を行ったケースを取り上げる。M&Aにおけるシナジー効果について学習しその効果が期待できる相手先について検討する。譲渡のスキームの違いにおけるメリットデメリットについても検討する。

第6回 11-12 講時 事業承継失敗事例

事業承継の失敗事例について討議を行う。いくつかの事業承継に失敗したケースを取り上げ、失敗した原因、どうすれば良かったかについて討議を行う。

第7回 13-14 講時 同族経営のメリット・デメリット

これまでの学習を通じ同族経営のメリットとデメリットについて検討を行う。一般企業における同族経営の成功事例を紹介し、医療機関において永続的な同族経営を行うことの是非、同族であることの強みを活かし事業経営を続けていくために承継者が行うべきことについて討議する。

■授業方法

授業前半では、ケースについて解説を行うとともに、ケースに基づいた講義を中心に基本的な理論を解説します。

（講義途中でもディスカッションを挟む可能性あり）

授業後半では、ケースごとの検討課題を設定しディスカッションを行います。

■参考文献＜著者『タイトル』出版社、出版年＞

「持分なし医療法人」への移行に関する手引書 28年9月改訂版(厚生労働省) 以下のPDFを参照してください。

[http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/ikoutebiki\\_2.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/ikoutebiki_2.pdf)

■成績評価の基準と評価方法

成績評価の基準は、クリニックの事業承継についての手法、(医療機関特有の) 検討すべき事項について理解をしていることとし、討議への積極的な参加と数回のレポート提出によって評価します。

■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

親子承継、他人承継のケースについては資料を用意しますので、目を通してから講義に臨んでください。

※ 授業計画は、授業の順番や内容が若干変更になることがありますので予めご了承ください。